

ボランティア・市民活動のコーディネーター・リーダー等推進者のための

ボランティア情報

[volunteer information]

2012
SEP.

9

VOL.424

平成24年9月1日発行 毎月1回1日発行



赤ちゃん連れて働く若いママたち



みやぎけん けせんぬまし
宮城県気仙沼市

今月の**鼓動**

宮城県気仙沼市 「NPO法人ピースジャム」

被災地の子育てママがつくる「ピースジャム」

被災当時、「赤ちゃんのお腹を空かせてはいけない」との思いから、無我夢中で活動してきたというピースジャム主宰の佐藤賢さん。被災地の各家庭や避難所を尋ね歩き、赤ちゃんを持つご家庭を中心に、ミルクやおむつの無償配布を続けてきました。

「震災から一年半を経過した今、雇用保険の打ち切り等から、新たな支援を求めるご家庭も増えています」と佐藤氏。

自立を支援するために地域に就業の機会を創出したいと「ピースジャム」という名を冠したジャム(タマネギ・ニンジン・トマト・フルーツ等)を作り販売を始めています。

「働き手は被災地のママさん達。乳児達が目に届く環境で働いてもらっています。現在は10名程度ですが、30人規模まで拡大したいと考えています。」(佐藤氏)

「ピースジャム」(平和の共有)は、フィードを広げて躍進を続けます。

●取材日/2012年8月31日

宮城県気仙沼市
「NPO法人ピースジャム」

<http://www.peace-jam.jp/>

東日本大震災を契機に立ち上がった、赤ちゃんとお母さんの生活を支援することを目的とする団体。宮城県気仙沼市、宮城県本吉郡南三陸町、岩手県陸前高田市を中心にニーズ調査を行い、要支援に全国か

ら集まったベビー用品を手渡しで届ける。その他、赤ちゃんサロンやジャム作りを通じた被災者の雇用支援を実施。

特集

02 オヤジの底力 退職世代が地域を変える

Contents

ホントは身近なボランティア
広島市安芸区畑賀地区
..... 06

突撃訪問!
隣のコーディネーター
(ジュエリーコーディネーター)

帰ってきた!
あるある質問コーナー
..... 07

保険の広場
つながって広げ続けよう!
事務局日より
..... 08

心れあいネットワーク



社会福祉法人 全国社会福祉協議会

特集

オヤジの底力

～退職世代が地域を変える～



退職した男性たちが居場所をなくすのか、それとも前職のキャリアや趣味・特技を活かして今度は地域で活躍するのか…

それは本人の幸福度を左右するだけでなく、地域にもたらす影響も大きいのではないのでしょうか。

今回は、退職後もまた違ったミッションをもちながら地域で活躍するカッコイイオヤジたちを特集します。

退職前からアンテナをはっている

オヤジたちは退職前から退職後のことを考えはじめ、セミナーなどに出てみたりして情報を集めはじめている。

退職前の役職をひきずらない

デキるオヤジは地域やボランティアの世界では上下関係でないことを知っている。仲間とともに考えながら協力し合うことを知っている。

仕事以外の仲間や世界もひろがっている

退職前には出会えなかった人脈や、知り得なかった世界。それを知ったオヤジたちはもう止められない…

選択肢は無限大

前職で培った知識や技術をお金のためではなく今度は人のため社会のために。もしくは、好きなことや得意なことを活かして地域に貢献。全く違った分野に飛び込むことだってできる。オヤジたちの選択肢は無限大だ。

自由に活動を作り出していく

会社とは違い、地域での活動は自分たちで決められる。責任も伴うが、やりがいも充分だ。多才なオヤジたちが知恵と技術を出し合えば、オヤジにしかできない活動ができる。

そして、夢を捨てない

いくつになっても、夢を持ち続ける。そんなオヤジたちが老けるヒマはない。

～デキるオヤジの共通点～

シニア活動のサポート事業

岩手県社協 これからだ倶楽部

岩手県社協は中高年の方々を中心に「これからだ倶楽部」を組織し、社会への積極的な参画をサポートしています。会の発足から今年で5年目。登録会員数は180名、一般参加320名と、地域にしっかり根付いています。

当会を運営する目的は、退職世代の第二の人生をサポートすること。すなわち「新たな社会性づくり」を進めることです。活動は以下の3つの柱に分かれます。

仲間づくり

当会では会員同士の交流を重視しています。新たな人間関係の中で、自分を見つけるために、異年齢・異業種の人々が集まれる“機会”を提供しています。

役割・居場所づくり

ボランティア活動などの社会貢献活動機会を提供しています。運営委員会方式によって会員自らの企画運営による様々なプログラム開発を続けています。

生きがいづくり

当会では「人財バンク」というマッチング・コーディネートを推進しています。前職や特技を登録し、ニーズに備えます。



岩手県社会福祉協議会
社会福祉推進員

菅原 進さん

当会の活動は、被災地支援においても効果を発揮しました。がれき撤去や被災地での「歌声喫茶」等へのボランティアなど、趣味や各人の個性を活かした様々な活動をしてきました。

会員同士の関係性ができると、活動への参画モチベーションも高まり、仲間同士の助け合いも確実に増えてきます。好きなことだから積極的に参加できる、そんな手助けを今後とも続けていきます。



GO! SENIOR'S POWER!

「男性ならではの
発想力と実行力が
強みです。」

NPO法人 生きがいの会
松溪ふれあいの家

お ば ら け ん い ち
理事長 小原 健一さん



活動は「男の料理教室」から はじめた

いきがいの会を立ち上げたのは1996年から杉並区が主催していた「男の料理教室」に参加したメンバーの中で地域にも貢献したいとボランティア活動を始めていたメンバーでした。

2000年、介護保険制度が実施され、利用者を受け入れる施設が必要になりました。杉並区は少子化で空いた学校施設をデイサービスに活用しようとの構想を打ち出し、公募を行いました。「男の料理教室」からできたメンバーが応募し、採用されたのが「松溪ふれあいの家」というデイサービス施設です。

当時、メンバーの中には福祉や介護の関係者は一人もいませんでしたが、NPOの申請事務や営業活動などはお手のもの。私自身は仕事に一生懸命で親の面倒をよく見られなかったという後悔がありましたので、ここに来る皆さんのお世話をしたいと福祉についても懸命に勉強しました。

利用者は男性7割。 それは男性のニーズを 掘んでいたから

様々なデイサービスを見学に行くと男性利用者は2割くらい。男性目線で見た場合、やりたいことは個人個人違うはずなのにみんな同じことをしているのに疑問を感じま



囲碁大会で優勝者にはコーヒー無料券5杯分進呈

した。「自分たち(男性)が行きたくなるようなデイサービスを目指そう」。いつしかそれが私たちの合い言葉になっていました。

「松溪ふれあいの家」では、囲碁、将棋、麻雀、パソコン学習、書道、俳句等、自分の好きなものに参加できます。本気で競うものもあり、ライバルが生まれてきます。今では男性利用者は7割。皆さん、また会えることを楽しみにいらっしやいます。当NPOを支えてくださるボランティアや地域の人々との交流も活発に行われています。

退職後は、「地域との つながり」という 視点が必要

振り返ればサラリーマン時代は家庭と会社との往復。“地域”という概念は全くありませんでした。会社の関係が切れてしまうと、近所に知り合いは一人もいません。退職後に地

元のつながりを作るかどうかでその後の生き方もだいぶ変わると実感しました。

共に活動する仲間だけでなく、利用者としていらっしゃる方の中にも、人生の見本としたい方がいます。まだ勉強することは多いなと痛感させられています。

理念のひとつでもある地域貢献に基づき、元気なシルバー世代向け生涯学習施設である杉並区立「ゆうゆう西田館」「ゆうゆう荻窪館」の受託運営も順調で利用者も倍増しました。将来的には、この地域に住む家族全体のサポートができるような事業展開を目指しています。

〈取材日：平成24年8月31日〉



デイサービスでの麻雀風景。真剣勝負





アレッポ城の屋上で地元の少年達と

日本の”ものづくり”哲学を海外に伝える

私は高分子プラスチック材の電気・電子部品製造会社を60歳で定年退職し、JICAのシニアボランティアとしてシリアのアレッポへ2年間勤務しました。

日本の”ものづくり”の哲学と実践を指導するのが職務でした。会社勤務の間にアメリカに5年、マレーシアに2年の海外赴任経験はありましたが、中東シリアで品質改善やマネジメント(ISO)等の指導をするのは、前職とは違った、全く新しい体験でした。

“ものづくり”をどう考え、品質の向上をどうやって全員参加で構築していくか。現地の方と一緒に最初から再考する良い機会となりました。

会社に籍時とは違い、自分でプランニン

グしたカリキュラムには自分自身で責任を持たなければなりません。非常に難しいテーマではありましたが、やりがいを感じた2年間でした。

現地の人々との交流から「信頼」を獲得

アレッポでの生活は、現地のご家庭へのホームステイ。三世代が住まう3階建てのご自宅の3階を

お借りすることとなりました。年長者を敬い、家族が一致団結する生活は、古き良き日本を思い出させるものでした。

また、シリアの若者との交流もありました。アレッポ大学からの要請で毎月3時間のオープン講義を開講し、「実践品質講座」に結びつく、日本のものづくりの姿勢を伝えました。

シリアの文化や風習を知るにつけ、トップダウン方式の欧米型、ボトムアップ方式の日本型ではなく、アラブ諸国ではその融合タイプを推奨しました。

現地の方との出会いとふれあい、そして協同作業を通じて本当の意味での「信頼関係」を構築できたと思います。

日本に帰ってから人のために何かしたい

日本の企業人がそうであったように、私も企業のために、利益を得るために、全力を尽くしてきました。しかし、今振り返ると企業の中で知り得ることには限界があったのかもしれない。

退職した今、新しい人や、知らなかった世界をもっと知りたいと考えています。会社時代とはまた違う、信頼関係や友情に基づいた関係性。日本でもきっと出会えるはずと帰国した今、新たな活動に夢を抱いています。

「シニアボランティア経験を活かす会」では、帰国した後もそれぞれの経験を活かし、地域の小中学校や一般向けセミナー等で海外の様子を伝える活動を精力的に行っています。私も赴任したシリアの安定と再興を祈りながら、今後も精力的に活動していきます。

〈取材日:平成24年8月30日〉



空気清浄装置のメーカーにて

GO! SENIOR'S POWER!

海外に出て、日本のものづくりを
教えることは、
学ぶことでもありました

NPO法人
シニアボランティア経験を活かす会

くわ だ かす ゆき

桑田 和幸さん



GO! SENIOR'S POWER!

「山口県発の シニア・イノベーション 活動集団として」

NPO法人 山口県アクティブシニア協会

ふじ もと けん じ
会長 藤本 賢司さん



企業OBが立ち上げたNPO

高度経済成長期に重化学工業(機械・金属・輸送・電気工業・化学等)が発展した山口県。現在でも石油、化学、鉄鋼、造船など数多くの企業が立地しています。私は故郷の山口県を離れ、大学卒業後は定年退職するまで企業分析を手がける会社で数多くの企業と接してきました。

現在会長を務める「山口県アクティブシニア協会(略称:アイサ/AYSA)」の立ち上げは昭和63年、企業OBの有志らが結成したものです。私は「AYSA」の「企業経営塾」講師として事業参画したことがご縁となりました。

私自身は前職で経営管理、人材育成等のために数多くの企業を見てきたことが今の活動に非常に役立っています。

それぞれの前職や趣味・特技を NPO活動に活かす

「AYSA」の正会員は現在102名(うち女性10名)ですがそのほか活動者は合計300名を超えます。会員の平均年齢は67歳ですが、私たちの活動に年齢は関係ありません。様々な経歴を持つメンバーが、それぞれに力を発揮しています。

「AYSA」はコミュニティビジネス、ボランティア部門など9部会で活動。ボランティア部門では地元商店街の活性化や環境保全活動、国際支援や子ども育成活動など、それぞれのメンバーの趣味や特技



周南おもちゃ病院

に合わせて、多岐にわたるフィールドで活躍中です。

NPOを維持・運営していくためには収益事業を無視することはできません。コミュニティビジネス部門として、中小企業支援のための経営幹部養成や有資格者による「周南人材マッチングバンク」、「周南シニア劇場」(映画館)を展開し、企業の第一線で多くの経験を積んできた専門家のメンバーの力を思う存分発揮してもらっています。そして得た収益をボランティア活動などの地域貢献につなげています。

活動や可能性は無限大

NPOの人間関係には垣根がなく、活動も様々な分野にわたります。様々な人々と出会うことによって、ますます世界が広がります。

退職したシニア世代は「時間」「人脈」「知恵」を豊富に持っている「マスターズピープル集団(ひとつの領域をマスターした人)」です。人口が減ってきたなかで、これからは現役世代をフォローする役割を担うべきと考えます。

会員からは新規事業のアイデアが多く生み出され、それらが次の活動に結びついているのを見るにつけ、「人脈」「知恵」に定年はないのだと感じます。今後は山口県のみならず、全国に、世界に活動を広げていくことが夢です。

〈取材日:平成24年8月30日〉



周南シニア劇場

